

第1章

札幌らしい特色ある学校教育



第1章

札幌らしい特色ある学校教育

1 札幌らしい特色ある学校教育とは

(1) 自立した札幌人の育成とは

心の中に

「ふるさと札幌」
の意識を

「札幌市教育推進の目標」である「未来を切り拓く人間性豊かで創造性あふれる自立した札幌人」（平成22年12月改訂）は、ふるさと札幌に立脚して確かな学力、豊かな人間性、健康・体力から成る「生きる力」を、札幌市の教育活動全体を通してはぐくむとともに、全人的な教育の中で、将来の札幌（社会）を支える人材、すなわち「自立した札幌人」の育成を目指すことである。

その具現化のためには、心の中に「ふるさと札幌」の意識をもちながら、自ら考え、自ら判断し、他と共生しつつ将来の札幌を支えたり、世界で活躍したりするような人材としての「自立した札幌人」の育成を目指し、各学校が、素晴らしい自然環境・人的環境・文化的環境という「札幌らしさ」を活かした教育活動を展開していく必要がある。さらに、幼・小・中・高と続く、校種を超えて連続したはぐくみを実現していくことも必要である。

(2) 札幌らしい特色とは

市民にとって

魅力あるまち

札幌らしい特色を以下の3つの側面からとらえている。

- ・「自然環境」 … 冬の厳しさと雪に包まれるまち、緑に囲まれた自然豊かなまち、サケの上る豊かな川のあるまち
- ・「歴史や文化」 … 札幌の礎を築いた先人の営みをもとに、多くの人が集まり発展する道都、自然と融合した文化の香り立つまち
- ・「人々の気質・営み」 … 進取・自由の精神、大らかで広い心

（平成20年12月18日「札幌らしい特色ある学校教育の推進について」報告書より）

2 札幌らしい特色ある学校教育の推進

(1) 札幌らしい特色ある学校教育について

「自立した札幌人」の育成を目指す学校教育

札幌らしい特色を、幼稚園から高等学校までの学校教育を通じて一貫とした取組として生かしていくためには、

- 子どもの生活に根ざし、学校教育としてふさわしい活動であるか
- 発達段階に応じて体系的、体験的に取り組むことのできる活動であるか

という点に留意し、「札幌らしい特色ある学校教育」の内容を「札幌の特色（札幌らしさ）を生かした取組」と「子どもの未来を見すえ札幌市としてより重点を置く学習活動」という観点から、札幌市のすべての子どもが共通して取り組む学習活動を焦点化し、明確化している。

(2) 共通に取り組む「札幌らしい特色ある学校教育」

すべての子どもが

共通して取り組む学習活動

- ◇北国札幌らしさを学ぶ【雪】～雪を克服し、雪を楽しむ。
- ◇未来の札幌を見つめる【環境】～札幌の自然環境に目を向ける。
- ◇生涯にわたる学びの基盤【読書】～知的好奇心をふくらませる。

3 実践に当たって

(1) 北国札幌らしさを学ぶ【雪】

冬（雪）を 活かした学習

札幌市は 190 万人を超える人口を有する都市でありながら、豊かな自然に恵まれ、多種多様な動植物が生息している。夏季のさわやかさ、冬季の雪と厳しい寒さを特徴とした鮮明な四季の移り変わりが見られる。年間降雪量が 5 m を超える世界でも稀有な街に暮らす子どもたちは、ウィンタースポーツをはじめ、雪まつりなどのイベントなど雪と親しむ生活の知恵・文化の中ではぐくまれている。

北国の大都市である札幌らしさを学ぶ意味からも、冬期間の恵まれた自然環境(雪)を活かした体験的な学習を充実させることは一層重要である。

スキー学習

札幌市にはスキー場やスケートリンクなどの施設があり、小学校では、冬になるとグラウンドにスキー山が作られるなど、充実した環境の中で学習を進めることができる。また、中学校においても、平成 22 年度の調査によると、新たにスキー学習を実施する学校が増加する傾向にある。新学習指導要領では、保健体育科の内容の取扱いにおいて「自然とのかかわりの深いスキー、スケートや水辺活動などの指導については、地域や学校の実態に応じて積極的に行うことに留意するものとする。」と示されており、中学校における平成 24 年度の新学習指導要領の全面实施により、保健体育の授業時数が現行の 90 時間から 105 時間に増えるのを機に、各学校におけるスキー学習の実施が期待される。

札幌市教育委員会では、懸案となっているスキー学習に伴う保護者の経費負担軽減のため、スキー用具のリサイクル事業を実施したり、レンタルスキーの活用方法などについてモデル校事業を通じて実践研究を行い、その成果を発信したりするなど、観光文化局スポーツ部やスキー場関係者、関係団体と連携しながら札幌市におけるスキー学習の一層の拡充を目指している。

幼稚園における冬の活動

幼児が主体的に雪に親しみ、全身で十分に活動に浸ることによって、北国の長い冬の季節を元気に過ごすことができる。幼児期は、教師との信頼関係に支えられて自分でやってみようという気持ちをもつことができることから、幼児の興味関心に基づいた環境構成をするとともに、教師も一緒になって雪遊びを楽しむことで、より一層活動への意欲が喚起され、心からの充実感や満足感につながる活動となる。

雪中運動会・アイスクャンドル

学校行事や特別活動で「スノーフェスティバル」を開催し、その中で、雪中運動会や雪像作りなどに取り組むことが考えられる。雪を活用してダイナミックに活動することを通して、仲間意識を深め、異年齢での人間関係を高めることができる。また、地域でのアイスクャンドル作りなどの取組に参加することによって、地域社会の一員としての自覚をもち、キャンドルの温かい灯りに包まれる中で「優しく温かいまちづくり」へ向けた「共感・共生」の心を養うことができる。

除雪などのボランティア活動

雪が降っている朝に、高学年の児童が、登校してきた下級生の体に着いた雪を優しく払ったり、玄関前の除雪を行ったりするなど、雪を介して、支え合いの精神をはぐくむ札幌らしいボランティア活動を充実していくことが大切である。また、地域の除雪ボランティアや砂まきボランティアの取組は、児童生徒の社会参加のきっかけともなる機会であり、積極的に広げることができるよう、学校と地域が相互に連携し協力していくことが大切である。

雪に関する学習

教科等の学習の中でも、冬の札幌の気候や除雪の仕組みについて学習するなど、冬（雪）を題材とした学習が考えられる。小学校6年「暮らしと政治を調べてみよう」では、札幌市雪対策室や各区の土木部と連携し、写真資料や雪に関する資料の提供を得て「除排雪について考える」学習を効果的に進めることができる。また、中学校2年理科「天気の変化」では、実際に人工雪発生装置を作成し、雪に対する興味関心をもたせることから、冬の天気の学習につなげていくことができる。総合的な学習の時間の中で、札幌ウィンタースポーツミュージアム等の施設も活用できる。

(2) 未来の札幌を見つめる【環境】

日常生活に活かす環境教育

平成19年に環境局と教育委員会が共同で「札幌市環境教育基本方針」を策定し、これに基づき、環境教育を効果的に行うための手引として「札幌市環境教育プログラム」を策定した。現在、市立学校における環境教育の取組は100%であり、学校の置かれている自然環境等を生かしながら、「校外清掃活動」「節電への取組」「節水の取組」等、各学校において様々な取組がされている。

札幌市の素晴らしい自然環境に目を向けていったとき、それを守り、育てていくという観点が、未来の札幌を見つめるという視点からも極めて重要であり、環境教育の充実は、生涯にわたる習慣となり、さらにまちや人とのかかわりを深め、考え、行動することにつながっていく。

さっぽろエコスクール宣言

各園・学校が日常的に取り組んでいる節電・節水の取組やゴミ減量等の様々な活動、環境に関する学習の様子を「エコスクール宣言」として、すべての市立幼稚園・学校がまとめ、公表している。宣言した学校には玄関に貼付する「エコスクール宣言シート」が送付される。学校ホームページや教育委員会のホームページで公開される各学校の取組を情報共有することで、環境教育を進める参考にすることができ、子どもの環境への意識を高める上で効果的である。

エコライフレポートへの取組

環境局から、夏・冬休み前に全児童・生徒分のエコライフレポートが配布される。学校で集約し環境局に送付すると、CO₂削減量を樹木の本数に換算され、手稲山口にあるエコライフの森に植樹され、各学校へは認定証が送付される。短時間で取り組めるように工夫されているため、各学級の長期休業前の学級活動などにおいて記入させ、長期休業中の目標として取り組ませることも有効である。

栽培活動・農業体験

教材園や近郊の農家との連携で子どもたち自身の手で栽培活動を行うことも考えられる。栽培し、収穫する喜びや栽培がうまくいかない経験も、その主体として直接体験することが大切である。その際「学校給食フードリサイクル」について学んだり、学校で堆肥づくりを行ったり、収穫した野菜などを食したりすることは、環境教育ばかりでなく食育にもつながる。「また栽培したい」という気持ちをもたせることが、身近な自然に対する興味につながり、次の活動のきっかけにもなっていく。

環境に関する学習

社会、理科、家庭科など、様々な教科の中で環境教育を行うことが可能である。「札幌市環境教育プログラム」や「札幌市総合的環境副教材」などを参考にしながら具体的な活動を年間指導計画に基づいて展開することが大切である。例えば、小学校6年理科「電気の利用」では、LED電球と豆電球を比較することで「有効利用」の考えへと導く学習が、5年家庭科「寒い季節を快適に」では健康や環境に配慮した明るさや暖かさを意識する学習が可能である。中学校1年理科「身の回りの物質」からエネルギー環境問題を取り扱うことで、環境問題への意識を高めることが考えられる。

(3) 生涯にわたる学びの基盤【読書】

読書活動の
推進

読書によって、子どもは、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにする。そして、新しい情報を獲得することにより、「知的好奇心」をふくらませ、生涯にわたり、学び続けようとする心が培われる。同時に、子ども自身が自分の生き方について考えたり、心のよりどころを見出したりすることにつながる。

札幌市では、「第1次札幌市子どもの読書活動推進計画」を平成17年6月に策定し、家庭、地域、図書館、学校等が協力して、子どもに対する読書の様々な機会の提供と環境の整備を進めてきた。平成22年9月には、第1次計画の基本方針を継承しながら、子どもが自然に読書に親しみ、進んで読書習慣を身に付けることができるよう、社会全体で取組を一層進めるべく第2次計画を策定したところである。また、札幌市には、札幌市独自の寄託図書や学校図書館地域開放校などの特筆すべき読書環境があり、平成22年度からは、市立図書館の蔵書をネットワークを通じて学校から借りることのできる図書資源ネットワーク事業の検討も開始された。

市立学校においては、平成22年度の調査で、朝の読書活動を実施する学校が、小学校ではほぼ100%、中学校でも90%、高等学校で45%となっており、朝の短い時間を活用した読書活動の取組が進んでいる。

学校図書館を中心とし、札幌市の恵まれた読書環境を有効に活用しながら、様々な読書活動を、学級担任と司書教諭や図書館担当者、図書局・図書委員会や地域保護者ボランティアなどが協力して推進していくことは、子どもたちの生涯にわたる、学びのための基盤となる読書の力を身に付けることにつながっていく。

効果的な一斉読書

朝の短い時間で取り組む一斉読書は、全校一斉で実施すること、教員も教室で一緒に読むことが有効である。一斉読書の取組を進める上で効果的なものとして、「寄託図書」の活用がある。同じ作者の本を取り寄せたり、テーマに沿った「セット図書」を利用して期間限定の学級文庫を設置したりすることで、作者やテーマに沿った読書への関心を喚起することができる。また、高学年が低学年に、高校生が小学生に読み聞かせをする目的をもち、そのための本を一斉読書で読んだり、実際に読み聞かせをしたりするなどの活動は、目的意識をもって一斉読書に取り組む上でも効果的である。

教科等と関連付けた読書活動

教科等の学習と関連付けた読書活動の例としては、4年社会科「自然環境を生かすまち」で「北海道地誌」などの資料を活用した調べ学習を行ったり、6年理科「土地のつくりと変化」で寄託図書や学校図書館で化石に関する資料を探したりする学習活動が考えられる。また、国語の「読むこと」の学習では、作者の紹介文を書く目的をもって、同じ作者の作品を比べ読みすることにより関連読書へつなげることができる。このように、教科等の学習によって喚起された知的好奇心を効果的に読書につなげていくことが、生涯にわたる学びの基盤づくりに有効である。

司書教諭と担任との連携

調べ学習では、単元の導入で児童生徒が各自のテーマを設定するタイミングや、発展的な学習で調査活動に入る場面で、学級担任や教科担任と司書教諭が連携することが効果的である。司書教諭が参考図書や新聞などの参考資料を紹介したり、テーマに関連した図書をあらかじめ選んでおいてブックトークで紹介したりすることによって、より効果的に教科等の学習と結び付けた読書活動が可能になる。年間の指導計画の中で、連携を図る単元をあらかじめ打ち合わせておくと、準備に時間をかけた効果的なレファレンス（本や文献についての問い合わせなどに答えること）につながる。

地域・保護者ボランティアとの協力

児童生徒の読書活動の活性化に欠かすことのできない存在が、地域や保護者ボランティアである。例えば、一斉読書の時間に大型絵本の読み聞かせを行ったり、図書館担当者や図書委員会と協力して、学校図書館の環境整備や壁面装飾を行ったりするなど、個々のボランティアの個性や能力を活かした活動によって読書活動を一層活性化することができる。ボランティアが貸し出し業務を行うことで、放課後の学校図書館開館を行う学校も増える傾向がみられている。

(4) 年間カリキュラム

教育課程の 編成

【雪】【環境】【読書】の学習活動の、各教科・領域の年間指導計画への位置付けは、カリキュラム例を参考に、幼児児童生徒の実態や各学校の現状に即して教育課程に位置付けていくことになる。その際には、「札幌らしい特色ある学校教育」の三つのテーマの学習活動を通し、子どもにどのような力を身に付けさせるのかを各学校で明確にし、見通しをもって教育課程を編成することが重要である。